

応用源文学

-Application of GENBUN-



BloodyWorks Presents

前文

「源文学」シリーズも序論、基礎、発展に続いて第四弾となりました。年二回のコミックマーケットサークル参加ごとに新刊を製作するペースで突き進み、そろそろネタが苦しくなっている今日この頃です。皆様いかがお過ごしでしょうか。小林氏は今年は今年でしっかり新作を発表されてはいるのですが、それを機械的に紹介してするだけでは上手く企画が回りそうに無いのが悩ましいところです。

というわけで(？)今回は執筆開始時期に『小林源文ベストセレクション』の第七弾が発売された事もあり、賛否両論の渦巻く同シリーズの研究考察記事をメインに取り上げてみることにしました。また当サークルの参加ジャンルはメカミリでは無く評論なのでどちらも一応それに沿った真っ当な企画ということになりますが、お楽しみいただければ幸いです。

平成 18 年 12 月

BloodyWorks 『基礎源文学』製作委員会

野分はるな(構成担当)

考察『Best Collection』

『小林源文ベストセレクション』シリーズは近年学習研究社・歴史群像コミックスから発売されている一群の源文作品シリーズです。その実態は廃刊となってから日が経ち入手困難となった旧作品（主に大日本絵画から供給されていた物）であり、当時の作品を所持していない比較的新規のファンをターゲットにした物といえるでしょう。

しかし滅多やたらと『新装』やら『完全』やらという文字が加わっている事が示すとおり、旧作品と全く同一内容のまま出版されているわけではありません。一部の表題作では製作側の都合で不十分な品質のまま出版されてしまったページや、現在の視点から見て明らかにクオリティに劣るやページなどに対する加筆修正が行われています。また原稿が紛失してしまった作品の再録に当たっては旧版をトレーシングした上での新規原稿書き下ろし¹による修復も行われているそうです。

これらに加えて各ベストセレクションには小林氏による作品解説や後書、編集担当との対話（ただしこれは創作の度合いが大きいらしい）書き下ろしの短編などが収録されており旧来のファンにとってもより興味を引かれる心憎い内容²となっています。

¹ 最近ではドイツアフリカ軍団の栄光を描いた「アフリカ軍団」に収録されている「ロンメル」でもこの修復作業が行われている。

² 余り度がすぎると某ゲーム会社のように『源文商法』とレッテルを貼られそうな気もしますが。

4 考察『Best Collection』

小林源文ベストセクション 一覧 (2006 年 12 月現在)

1. カンプグルッペ Zbv [完全版]
2. 第 2 次朝鮮戦争 ユギオ II [完結編]
3. オメガ J
4. 炎の騎士 ヨーヘン・バイパー戦記 [完全版]
5. 東亜総統特務隊 [新装版]
6. 狼の砲声 [限定版]
7. 装甲擲弾兵 [改訂新版]

とはいえ自分のような差別主義的人間はこれらの作品に対する「所詮は再販品」という云われの無い偏見を拭い去る事ができず、立ち読み防止用のビニールに包まれた新作をそのままレジに運ぶような博愛主義的な行動³に出ることはなかなかできません。「再販の新刊」を手にした時の、どこがどう旧版と違うのかハッキリしろ、という念は（特に既に所持している作品の場合）かなり大きな物があります。

よってここではこれらの作品の販売拡大の一助(妨害?)のため、「小林源文ベストセクション」各巻の詳細な収録内容紹介を敢行したいと思います。

³ 蛇足ですが、最近は立ち読み可能な書店で品定めをするようになったのでこの種のジレンマを意図的に回避できています。

vol.1 カンプグルッペ Zbv [完全版]

発行日：2003 年 01 月

収録物：カンプグルッペ Zbv (1993 年，大日本絵画)

カンプグルッペ Zbv

1944 年、随所で戦線の崩壊した東部戦線において、不良兵や脱走兵（実際には部隊からはぐれて迷子になった落伍兵）を集めて編成された懲罰大隊「Zbv」の壮絶な戦い様を描いたのが本作品です。実在の懲罰大隊は死体埋葬や地雷処理などを主任務としていましたが、この「Zbv」は更に扱いが悪く任務は囷や敵の足止め、完全に包囲された味方のダメ元の救出作戦などの死傷率の極めて高い過酷な物ばかりとなっています。『任務から開放は死によってのみ』という言葉の通り彼等の行動方針は常に「損害に構わず」であり、混乱した戦線の常として大量発生する「脱走兵」によって戦力を補充しながら味方の為、そして自らの生き残りの為に悪戦を続けます。

本作品は舞台が末期の対ソ戦、主人公の所属は戦車部隊と小林氏の代表作といえる「黒騎士物語」と非常によく似た状況設定⁴で描かれている作品です。しかし「黒騎士物語」では指揮官も部隊も上層部から厄介者扱いされながらも英雄的・陽性に描かれている⁵のに対し、Zbv は指揮官の性格や部隊の空気なども非常に刹那的に描かれています。こういった点から見ても「カンプグルッペ Zbv」は「黒騎士物語」の対であり、影である作品と呼べるのかもしれませんが。

なおこの作品は旧版では製本上の過誤で後半 50 ページの彩色が薄くなってしまっていたましたが、ベストセレクション収録に当たって全面的な修正（再着色）が行われています。

⁴ 実際に後述の「狼の砲声」では黒騎士中隊と Zbv が同じ戦場で戦っている場面があります。

⁵ 特に「黒騎士物語外伝」はこの傾向が強い。

vol.2 第2次朝鮮戦争ユギオ II [完結編]

発行日：2003 年 01 月

収録物：第二次朝鮮戦争 ユギオ 2（1996 年，日本出版社）

第二次朝鮮戦争 ユギオ 2

体制崩壊を目前にして一か八かの賭けに出た北朝鮮の南進・第二次朝鮮戦争（韓国語でユギオ 2）を扱った架空戦記。本作品では北朝鮮による奇襲的な南進開始から韓国軍による 38 度線での迎撃戦闘を経て日米韓連合軍による元山上陸、そして米空軍による平壤爆撃と北政権の崩壊までが描かれています。また北朝鮮の戦略ミサイル破壊や機密資料奪取のためにオメガチームが出動しており、更に「オメガ」第四話と微妙に話がリンク⁶しているなど設定面での一致性が大きいため本『源文学』ではこの作品をオメガシリーズ系統の一作品として分類しています（オメガシリーズについての詳細は「序論源文学」を参照）。

同作品は「完結編」と題してあるとおり物語末に 8 ページ分のエピソード追加が行われてます。日本出版社から発売されていた旧版は B-52 による平壤爆撃と元山への第一空挺展開までで終了となっていたましたが、完結編ではこの後に B-2 による平壤再爆撃・米韓陸上戦力の平壤進撃・金政権の中国亡命など 8 ページ分のエピソードが書き加えられています。また巻末資料として各戦線における部隊の動きが記入された時系列順の戦略地図が新規掲載されており、物語の展開を地図を見ながら再確認する事が可能となっています。

⁶ 場面はやや違うものの、南米麻薬カルテル襲撃作戦で戦死した班長と見られる人物の葬式について小松達が会話している。

vol.3 オメガ J

発行日：2003 年 06 月

収録物：オメガ J (1997 年，集英社)

ウサギの黒騎士 I (新規収録 + 書き下ろし)

オメガ J

自衛隊出身者で編成された国益優先の非公式特殊部隊「チームオメガ」を主人公とした作品。過酷な訓練で鍛え上げられた隊員と最新の装備を誇るチームオメガは邦人を誘拐したテロリストの実力で排除や、国内企業が不正輸出した核濃縮プラントの破壊等の特殊作戦をこなしていきます。

なおオメガシリーズにはコンバット・コミックで連載されていた「オメガ 7」とウルトラジャンプの連載されていた「オメガ J」の二系統が存在し、「オメガ 7」は一足早くソフトバンクから復刊されています。また 2006 年 12 月現在「ストライク・アンド・タクティカルマガジン⁷」にて『新・オメガ 7』が連載中であり、こちらは連載前期分⁸がソフトバンクより「オメガ 7 vol.2」として単行本化されています。

⁷ 出版元：エアワールド社 <http://www.sat-mag.net/>

⁸ 近々完結予定らしい。

ウサギの黒騎士Ⅰ

「キャット・シット・ワン」で好評を博したアニマル系のキャラデザインを用いて「黒騎士物語」を再製作したオマケ短編劇画。ドイツ人がウサギ、ロシア人がクマ⁹で描かれており、黒騎士中隊おなじみの面々も全員ウサギとして登場します。ストーリーはクルツの黒騎士中隊転属から初めての戦いまでとなっていますが、作戦内容が包囲された味方の解囲救出と原作と全く違っている上にバウアーが既に眼帯をしていたりと必ずしも原作の物語を忠実になぞっている訳ではありません。

なおこの「ウサギの黒騎士Ⅰ」は「コミックリベル¹⁰」に連載されていた二話分と、「コンバット・コミック」に掲載されたオマケ劇画を書き下ろしページで継ぎはぎすることで一つの短編に仕上げたものです。そのため雑誌連載分と新規書き下ろし分で着色方法の違いなど（というよりも加えた手間の量の違い¹¹）が見られます。

⁹ 現状第四弾までずっと話の舞台は東部戦線なのでイギリス人（「キャット・シット・ワン」ではネズミ）や日本人（同様にサル）は登場しません。とはいえ、もしルーマニア人やフィンランド人が登場したらどの動物で描かれるかは想像の尽きないところです。

¹⁰ 出版元はコミック分野に新規参入を図った日正堂（主な出版物は成人向け月刊誌）という出版社。とはいえ、このコミックリベルはたった二回で廃刊になっている。

¹¹ 正直に言うと新規書き下ろし分はかなり手を抜いている印象があります。はい。

vol.4 炎の騎士

ヨーヘン・バイパー戦記 [完全版]

発行日：2004 年 02 月

収録物：炎の騎士（1990 年，大日本絵画）

ウサギの黒騎士 II（書き下ろし）

炎の騎士 ヨーヘン・バイパー戦記

アルデンヌ攻勢とパイパー戦闘団の名で戦史に名を残す、武装親衛隊の指揮官ヨーヘン・バイパーを主人公とした戦史系劇画。作中では大戦を通して武装親衛隊のエリート部隊 L S S A H（開戦時連隊、旅団を経て装甲擲弾兵となり、最終的には装甲師団）に所属し、機械化擲弾兵部隊の中級指揮官として縦横無尽に活躍するパイパーの激烈な戦いが描かれています。

本作品は冒頭で戦記劇画と評したとおり場面描写の多くを史実の資料に基づき、各場面ごとに日付入りの説明テロップが頻繁に挿入されています。また地図の掲載枚数も非常に多く、部隊の移動や各時点での戦線について判りやすく説明されているので L S S A H の軌跡を知るよい資料であると思われます。

なお巻末資料として 1942 年型装甲擲弾兵師団となった L S S A H の構成が網羅された模式図、及びアルデンヌ攻勢時のパイパー戦闘団に所属していた全車両を見開きで掲載した編成図が掲載されています。ページを埋め尽くす各種車両軍が醸し出す機械化師団の威容は必見。